

北海道白糠町沿岸住民の防災意識調査

Survey on disaster prevention awareness of coastal residents of Shiranuka Town, Hokkaido

草苺敏夫
Toshio KUSAKARI

釧路工業高等専門学校 創造工学科

Department of Creative Engineering, National Institute of Technology, Kushiro College

Shiranuka Town located on the eastern coast of Hokkaido was instructed to evacuate to 1,070 households, 2,400 people at the time of the Great East Japan Earthquake. We conducted a questionnaire to investigate the change in disaster prevention consciousness of local residents afterwards. Based on the results, they are seeing the hazard map, and although there are many people who know evacuation sites, it became clear that there are few people who are stockpiling.

Key Words: disaster prevention, awareness survey, questionnaire, Shiranuka Town, Hokkaido

1. はじめに

道東太平洋沿岸に位置する白糠町は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震において、1070世帯、2400人に避難指示が発令され、ピーク時で720人が避難施設に避難している。町では、その後の津波浸水予想図の改訂により、防災事業に力を入れだし、地方創生に関する施策の導入により、2015年に策定された白糠町創生総合戦略の中に、防災教育の推進が明記された。

本研究では、今後の防災教育の推進に寄与するために実施した、住民対象の防災意識調査に関して報告する。

2. 調査概要

2.1 調査対象

図1に調査範囲を示すが、調査は、庶路地区と白糠地区に位置する54行政区分で実施し、区分内に存在する4023世帯のうち、30%にあたる1234世帯を対象として行った。

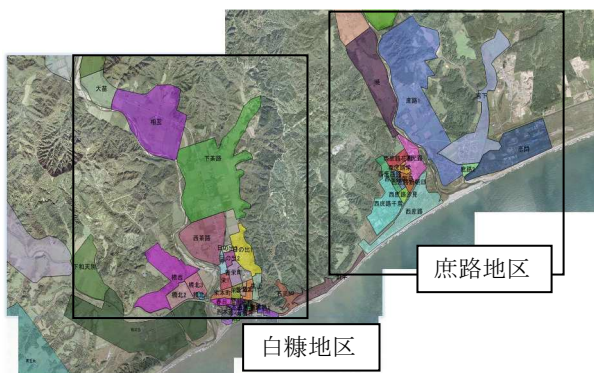


図1 調査範囲

2.2 調査方法と調査内容

調査は、白糠町役場地域防災課の協力を得て、図2に示す方法にて調査票の配布と回収を行った。

調査期間は、2015年11月～12月までである。

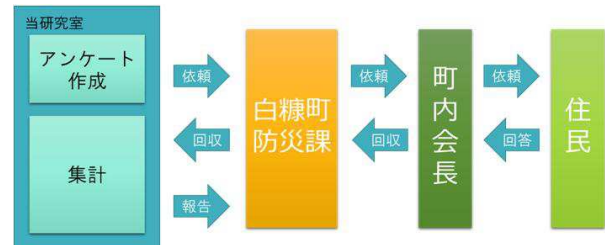


図2 調査票の配布と回収方法

調査内容は、基本事項、地震と津波に対する防災意識であり、質問事項を以下に記す。

(1) 基本調査

- Q1. 住まい、住居年数
- Q2. 年齢、性別
- Q3. 職業
- Q4. 家族構成
- Q5. 同居者の人数と年齢、歩行困難の同居者
- Q6. 住居形態
- Q7. 住居構造

(2) 地震と津波に対する防災意識調査

- Q1. 住居は地震に対して危険だと思うか
- Q2. Q1. に対してなぜ危険と思ったか
- Q3. 地震のゆれに対して何らかの対策を行っているか

- Q4. お住まいの場所は津波に対して危険だと思うか
- Q5. Q4. に対してなぜ危険と思ったか
- Q6. 過去に地震・津波による避難経験はあるか、避難した理由
- Q7. ハザードマップを見たことがあるか
- Q8. 避難場所を知っているか
- Q9. 家族で防災対策について話し合ったことはあるか
- Q10. 町内会等の地域コミュニティに所属しているか
- Q11. Q10 の所属していない方に対して、なぜ所属していないのか
- Q12. Q11. の所属している方に対して、どのような防災活動を行っているのか
- Q13. 住居には現在、何日分ほどの食料があるか
- Q14. 食料のほかに備蓄してある防災用品はあるか

2.3 回収結果

配布した 1234 世帯のうち、1000 世帯から回収が行われ、回収率は 81% であった。このほかに青年部の協力により、24 件の調査票を回収した。以下では、回答結果の中からいくつか抜粋し、例示する。

3. 調査結果

3.1 基本調査

(a) 回答者の年齢

図 3 に回答者の年齢構成を示すが、70 歳以上が最も多くなっており、全体の 39% を占める。

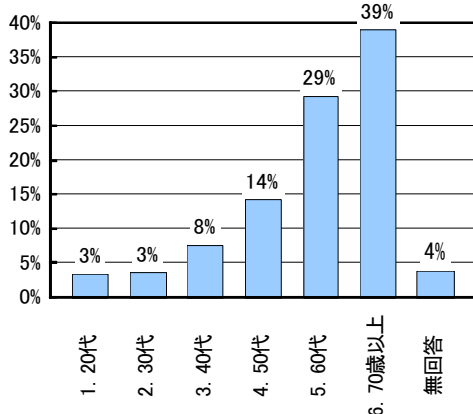


図 3 回答者の年齢構成 (n=1024)

(b) 回答者の性別

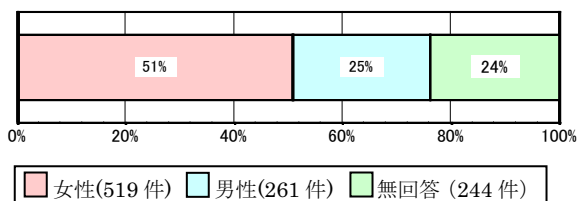


図 4 回答者の性別 (n=1024)

図 4 に回答者の性別を示すが、女性が 51% を占めており、男性は 25% となっている。

(c) 回答者の職業

図 5 に回答者の職業を示すが、無職の方が 45% と 1 番多く、高齢者の方が日中に在宅されていると予想される。

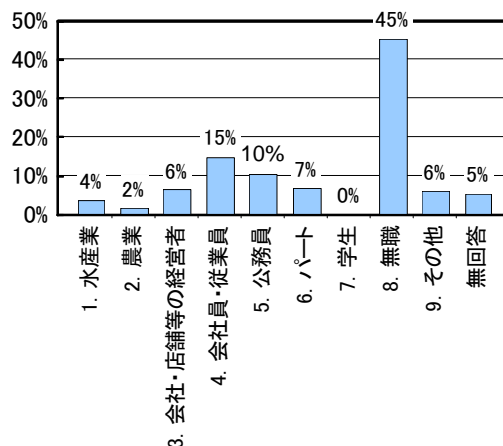


図 5 回答者の職業 (n=1024)

3.2 地震と津波に対する防災意識調査

(a) 住居の危険性認識

「住居は地震に対して危険だと思うか」との設問に対する回答結果を図 6 に示すが、「どちらともいえない」が 44% と最も多く「とても危険」と「危険」を合わせると 34% となる。

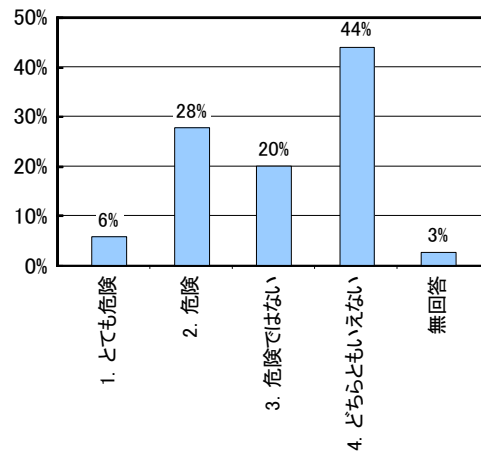


図 6 地震に対する危険性 (n=1024)

(b) 危険と思った理由

「とても危険」と「危険」と回答された方々を対象に、その理由を聞いた結果を図 7 に示す。

「住居が古いから」と回答された方が 205 件と最も多くなっており、「住居に耐震対策を行っていない」が 138 件で、2 番目となっている。図 6 において、危険でないと回答された方は、比較的新しい住居に住んでいるものと考えられる。

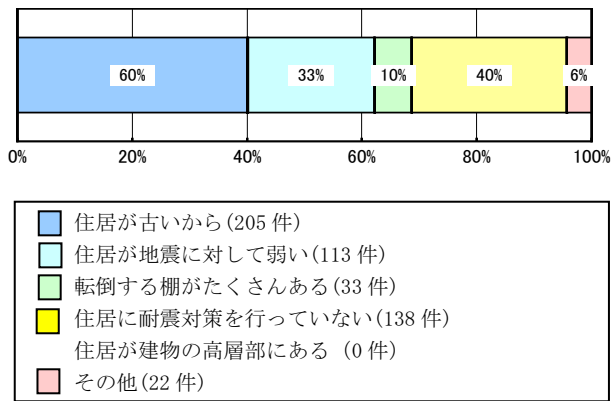


図7 危険と思った理由(複数回答 n=341)

(c) 揺れに対する対策

「地震のゆれに対して何らかの対策を行っているか」との設問に対する回答結果を図8に示す。「行っていない」との回答が561件となっており、「行っている」を上回っている。

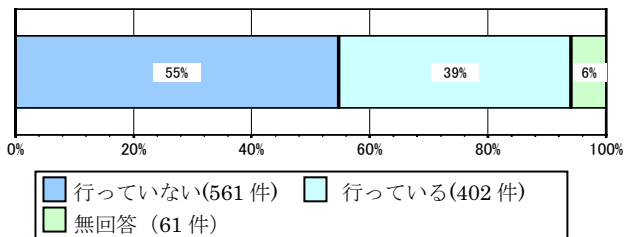


図8 地震の揺れに対する対策(n=1024)

(d) 対策方法

「地震の揺れに対して何らかの対策を行っている」と回答された方々の対策方法に関して図9に示す。

84%が、「家具等の転倒防止」と回答しており、「住居の耐震補強」は11%となっている。

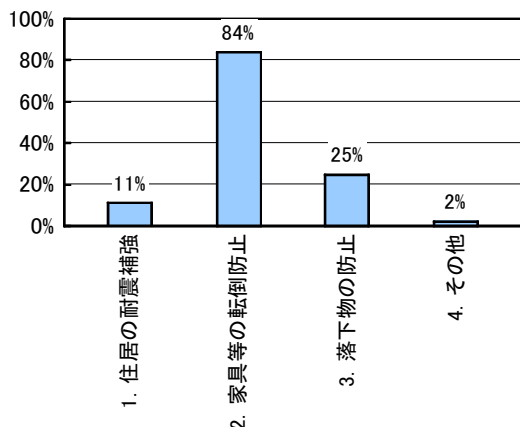


図9 対策方法(複数回答 n=402)

(e) 場所の危険性認識

「お住まいの場所は津波に対して危険だと思うか」との設問に対する回答を図10に示す。

「とても危険」と「危険」を合わせると54%となっ

おり、地震に対する危険性よりも、多くの方が津波に対して危険性を感じている。

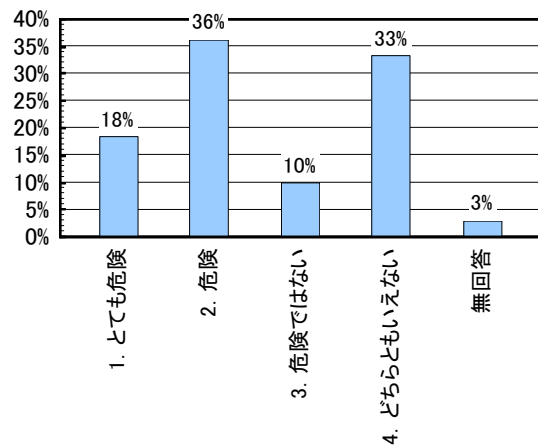


図10 津波に対する危険性(n=1024)

(f) 危険と思った理由

「とても危険」と「危険」と回答された方々を対象に、その理由を聞いた結果を図11に示す。最も回答が多かったのが、「住居が海岸に近いから」という理由であるが、「津波が来る前に避難できる自信がない」とする理由が、24%となっている。特に日中在宅となる高齢者にとっては切実な問題である。

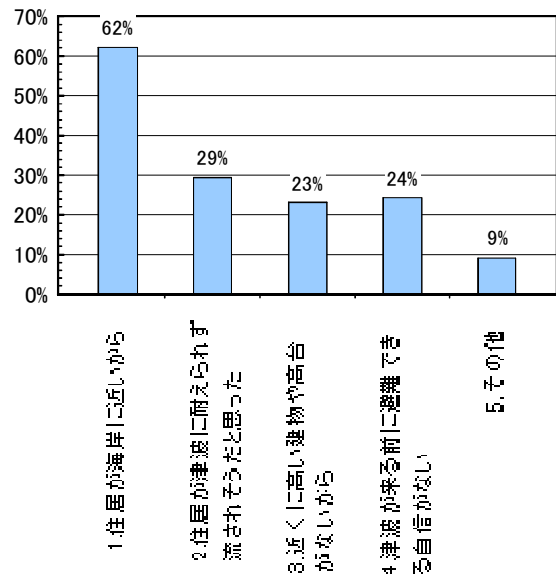


図11 危険と思った理由(複数回答 n=556)

(g) 過去の避難経験

過去に避難した経験があるかどうかとの設問に対する回答結果を図12に示すが、地震による避難よりも津波による避難者数が上回っている。何らかの要因で避難した経験のある方は、607件となっており、全体の59%にあたる。

「経験なし」と回答された方は、319件となっており、避難経験者の数を下回っているものの、日中在宅されている高齢者が多いことを考えると、経験されていない方の避難に支障が出ないように、対策を進める必要がある。

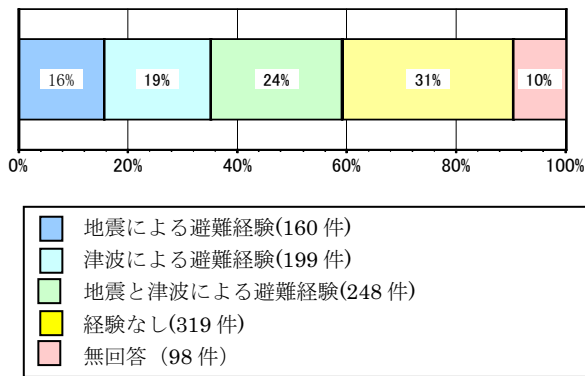


図 12 避難の経験 (n=1024)

(h) ハザードマップについて

「お住いの周辺ハザードマップを見たことがありますか」との設問に対する回答結果を図 13 に示す。「見たことがある」と回答された方は、全体の 74% になっており、ほとんどの方がハザードマップを見ている。

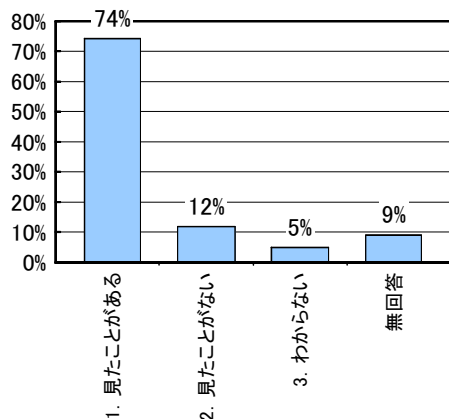


図 13 ハザードマップを見た経験 (n=1024)

(i) 避難場所の把握

「避難する場所を知っていますか」との設問に対する回答結果を図 14 に示す。

「知っている」と回答された方は、全体の 76% になっており、ほとんどの方が避難場所を把握している結果で得るが、「知らない」との回答も 15% になっている。これは、津波に対する危険性に対して意識が高いことと関連していると思われる。

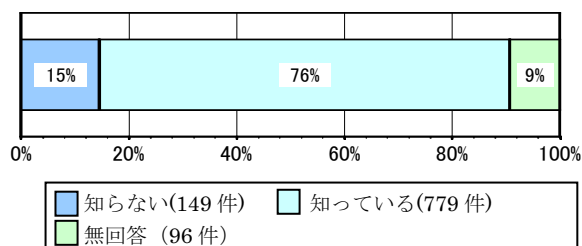


図 14 避難場所の把握 (n=1024)

(j) 家族での話しあい

「家族で防災対策について話し合ったことはありますか」との設問に対する回答結果を図 15 に示す。「ある」と回答された方は、全体の 59% になっており、「ない」と回答された方の 21% を上回っている。

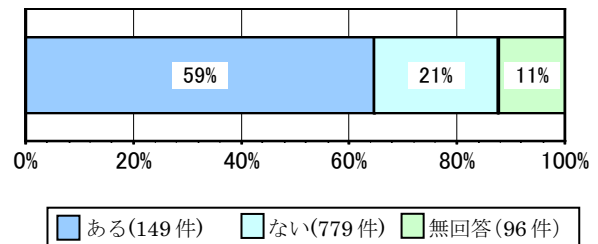


図 15 家族での話し合い (n=1024)

(k) 食料の備蓄

食料の備蓄に関する回答結果を図 16 に示す。

1~3 日程度が最も多く 42% になっているが、「ない」との回答も 34% になっており、3 割の方が食料の備蓄を行っていない。

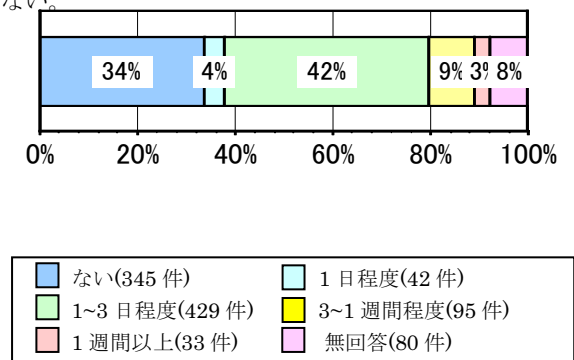


図 16 食料の備蓄 (n=1024)

4. まとめ

白糠町の住民を対象に行った防災意識調査から次のような結果が得られた。

- 1) 海岸に近いことから地震よりも津波に対する危険意識が高い。
- 2) 約 60% の方が、過去に避難経験がある。
- 3) ハザードマップを見ている方が多い。
- 4) 避難場所は、多くの方が知っているが、15% の方は知らない。
- 5) 食料の備蓄は、34% の方が行っていない。